

天国屋カフェ

糸原由美子

二〇〇九年に賀川記念館は新しく建て替えられました。そして翌年四月から隣保事業としてカフェを始めることになりました。木曜日から土曜日まで三日間、ランチを中心に午前一一時から午後四時までオープンしています。

およそ一〇〇年前、賀川豊彦さんが一膳飯「天国屋」を始めたものの当時の貧しい人たちの飲食代不払いのため、なんと三か月で経営不振により閉店となったそうです。しかし豊彦さんはいつか再開したいと願っていたようです。地域の人人々に栄養のある美味しいものを、安価で提供したい、との思いでした。

賀川記念館のいろいろな事業の中で、前の建物のとき行っていた隣保事業——学童

保育、オモニハツキヨ、老人給食——はそれぞれ保育園に引き継いだり、役目を終えたり、地域の方たちの手に引き継いだりと、建て替えを目前に記念館の手を離れました。

そして新しい記念館は今まだなかった資料館、ミュージアムとして展開することになりましたが、隣保館としての長い歴史を閉じてしまうわけにはいかない、それでは賀川豊彦さんの思いは引き継げない、新しい隣保事業はどのようなものがあるのか、と模索した中で生まれたものの一つが「天国屋カフェ」です。地域の方、記念館見学の方、福祉の関係者、教会に関わる方、

いろいろな立場の人たちが集い、食事をし、また生きづらい世の中で一生懸命な人たちの居場所を提供したり、サポートできるような場所として、新たに始められました。今、「オーナー」の上内牧師をはじめとしてスタッフやアシスタントはいろいろな教会のメンバーです。そしてボランティアの人たちもキリスト教に関心を持っていたり、最近教会に行き始めた方たちが多く登録してくださっています。試行錯誤しながらシステムづくりの途上ではありましたが、楽しく会話しつつ調理したり、月間メニューを考えたりしています。問題は、飲食店はいづれも同じ悩みを抱えておられると思います。お客様が何人来られるかわからないということですが、とりあえず二〇人分用意するのですが、日によって足らないのでは？ とハラハラするほど「ご来店」くださったり、今日は赤字！ という日もあります。でも概ね何とか賄っていているのは、月一回のナイトカフェのおかげでしょうか。ランチとは別に少しアルコールありのメニューで、単品を多種用意しています。また時としてイベントも企画します。元々はご来店された方が楽器を持ち込んで、自主的にミニライブをしてくだ

さったことが始まりでした。和気藹々と手拍子をたたいたり、時には踊ったりして楽しい時を過ごすうちに、これを事前にアピールしてたくさんの方に来ていただくとういうことになりました。毎月というわけにはいきませんが、ボランティアでライブをしてくださる方があり、本当に嬉しいことです。

またナイトカフェの楽しさには、いろいろな人との出会いがあると思います。誰が来られるかはわかりません。偶然の出会いがあり、思いがけないつながりを見出し、話に花が咲く、その時その時違った顔ぶれで、ランチと違って結構ゆつくりくつろいで、話が出来る、というすてきな場所です。テーブルの関係でいわゆる「相席」になることも多く、そんなときは何となく話しかけたりするうちに、共通の話題があったりして盛り上がる、といったふうになります。それはみんなが安心して来ることが出来る場所だからだと思います。

ナイトカフェはそういう場所ですが、もちろんランチカフェも、出合いの場所です。ご近所の方たちもいつもは道ですれ違った時会釈をする程

度ですが、ランチに来られて「おいしいよ！」と言ってくださるとほっと嬉しくなります。またその方たちは、きちんと味が薄いかか評価もしてくださいます。参考になります。遠くから記念館を利用されるために来られる方たちからは、どこから、どういうことで来られたのかお聞きすることができたりしますと、私たちスタッフも大いに触発(?)されたりいたします。

どこのお店の方もきつとそうだと思っておりますが、お客様のごちそう様！ 美味しかったですです」や「おなか一杯！」などは最高のねぎらいの言葉です。賀川豊彦さんが三か月で閉じざるを得なかったという「天国屋」。第二弾はおかげさまで三年目を迎えて邁進中です。「天国屋カフェブログ」もボランティアさんが作ってくださいました。よろしければ是非ご覧ください。そしてお近くにいられたら是非お立ち寄りください。あいにく週の半分しか開けておりませんが、おいしいメニューを用意してお待ちしております。

☆天国屋での働きをさせて

いただいた一年と七か月が過ぎました。最初に関わった時から天国屋も成長(?)して働く人も確立されメニューも多くなり、とても温かい雰囲気のカフェが、ますますパワーアップしたと思います。働いていてとても嬉しいのは、食事をしてくださった方は「美味しかった」の言葉です。素人のおばちゃんの手で食事を喜んで食べていたでけるのは感謝、感謝の気持ちでいっぱいです。本当に「有難うございます」です。今望んでいるのは作った食事が完売出来ること、新しい方が天国屋に足を運んでくださること、です。スタッフ皆がオーナー(牧師のことなり)の元氣と明るさに、力をもらっています。是非、一度お越しください。料理人は若人とは言えないちよつと(いや大分)年を重ねたものですが、気持ち若く元氣ですから、是非会いに来てください。お待ちしております。(T・N)

☆突然、上内先生より声を掛けられて、「天国屋カフェ」をお手伝いするようにになって、あつという間に半年が過ぎました。はじめはお料理が好きというだけでスタートしましたが、多くの方々に出会

「スタッフの声」

「スタッフの声」

い、お話しをさせていただけ
中で、お料理を作ることだけ
では得られない体験を日々さ
せていただいています。もち
ろん「美味しかった」と声を
掛けられることはとても嬉し
く、笑顔で話しながら食べて
おられる皆様の顔を見るたび
に、もつと美味しいお料理を
提供したいと思つてやってき
ました。数年前に大病を繰り
返しながらも、今、ここに生
かされていることを感謝し、
またこの出会いを感謝して、
これからも「天国屋カフェ」
で喜びのうちに、多くの方々
の出会いを大切に、美味しい
お料理を作つていきたいと
願つていきます。(K・M)

☆カフェが始まった早い時
期からお手伝いしていたので
すが、途中でしばらく体調が
悪くてお休みしました。戻つ
てきたらそこに全く知らない
おばさんがいて、それがT・
Nさんでした。その日からT・
Nさんとのカフェのお手伝い
が始まりました。バカなこと
もいながら楽しくやってい
ます。これからも仲良くお手
伝いしていきたいと思つてま
す。(Y・A)

(天国屋カフェ)

マネージャー)